

橋本よしぢ女史

橋本よしぢ女史は、過般の第七回全國幼稚園關係者大會に於て、仙臺市保育會長から、同市保育功勞者として表彰せられ、記念品の贈呈を受けられた。慶祝の至りである。女史は文久二年仙臺藩士大津仁右衛門氏の五女として生れた。明治維新家祿返上後の家政

乏しき間にあつて、機業場に働きつゝ、志を立て、仙臺師範學校に入り、明治十一年同校を卒業、直に母校培根小學校に奉職したが、恰かも、其時、同校先輩矢野成文氏によつて、仙臺市に始めて幼稚園が創設せられたのであつた。女史は明治十一年東京女子師範學校(今日の東京女子高等師範學校)附

屬幼稚園保母練習科に入學、同十三年卒業、直に本町通小學校附屬幼稚園保育擔任を命ぜられた。之れが翌十四年公立仙臺幼稚園となつたのであり、女史は實に、その前年から、保母となられたのである。明治十五年橋本氏に嫁す。明治十九年、東二番町小學校の訓導兼保母兼務拜命。昭和



七年満七十歳を以て、退職せられるまで、實に斯の途に一貫せられ、茲に、東二番町小學校附屬幼稚園創立六十週年に際し、恰かも同校を會場として開かれた盛大なる全國幼稚園關係者大會の席上に於て、今回の名譽を得られたのである。

女史は十一人の子福者であり、殊に長男寛敏氏は醫學博士(東京聖路加病院内科醫長)次男重郎氏は農學博士(宮崎縣高等農林學校教授兼科長)として令名あり、他の諸氏亦繁榮せられ、二十五孫(二曾孫)を恵まれ、母として、祖母として、曾祖母として、まことに中分なき幸福を得てゐられる。當

(倉橋記)